



I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)		日没		日付	夜半の月齢		月出 (星座)		月没	
	時分	(星座)	時分	(星座)		日	月	時分	(星座)	時分	(星座)
1	6:57	(みづがめ)	17:53		1	7.2	11:21	(う)	(し)	1	24
6	6:21	"	17:57		2	8.2	12:19	(ふ)	(たご)	2	20
11	6:14	"	18:1		3	9.2	13:19	"	"	3	9
16	6:7	(う)	18:5	(せ)	4	10.2	14:20	"	"	3	50
21	6:0	"	18:9		5	11.2	15:20	(か)	(に)	4	27
26	5:53	"	18:13		6	12.2	16:17	(し)	(し)	5	0
31	5:46	"	18:17		7	13.2	17:13	(六)	(ぶぎ)	5	28
					8	14.2	18:9	(し)	(し)	5	54
					9	15.2	19:4	(を)	(とめ)	6	21
					10	16.2	20:0	"	"	6	47
					11	17.2	20:55	"	"	7	14
					12	18.2	21:52	"	"	7	46
					13	19.2	22:50	(てんびん)		8	19
					14	20.2	23:47	"	"	8	59
					15	21.2	—	(へべつかひ)		9	44
					16	22.2	0:42	"	"	10	36
					17	23.2	1:33	(い)	(て)	11	33
					18	24.2	2:22	"	"	12	35
					19	25.2	3:5	(や)	(ぎ)	13	42
					20	26.2	3:45	(みづがめ)		14	51
					21	27.2	4:22	"	"	16	2
					22	28.2	4:57	(う)	(を)	17	14
					23	29.2	5:32	"	"	18	26
					24	0.8	6:8	"	"	19	40
					25	1.8	6:47	"	"	20	54
					26	2.8	7:32	(ひつじ)		22	3
					27	3.8	8:21	(う)	(し)	23	11
					28	4.8	9:14	"	"	—	—
					29	5.8	10:12	"	"	0	12
					30	6.8	11:3	(ふたご)		1	5
					31	7.8	12:14	"	"	1	49

II—天象

日付	時	天象
3	—	土星が會合
6	—	海王星が對衝
16, 14		木(北2°)と月と合
21, 4		春分
21, 21		金(南6°)と月と合
22, 13		水(南8°)と月と合
23, 2		水(南0.6°)と土と合
25, 2		火(南5°)と月と合
31, 6		金(北0.4°)と土と合

新月 3月23日13時14分      満月 3月 8日14時14分  
 上弦 3月30日 6時22分      下弦 3月16日17時35分

主な流星群

日付	赤經	赤緯	附近の星	性質
1日—4日	166°	+5°	獅子座 $\lambda$	緩
15日頃	250	+54	龍座 $\gamma$	速
18日頃	316	+78	ケフェウス座 $\beta$	緩

## 遊 星 界 (三月)

**水星** 月はじめ山羊座の中央にあり、漸次東進し、水瓶座を経て、春分點の近くで4月に入る。光度は増加の一路、曉の星であつて、觀望は月はじめの頃のみ、月末には太陽に近づき、觀望不能。

**金星** 山羊座の中央、水星の少し西にあり、東進し、水星を追ひ、月末には水瓶座の東境まで来る。低いが、「曉の明星」の貫録を示し、光度負3.4等。やがて太陽と合になり、秋まで愛らしい姿とお別れは必然の運命。

**火星** 日没後わづかに西の空に見える。光度2.1等。黄道にそひ。魚座を東進してゐる。

**木星** 曉の星。段段見易くなる。夜半すぎてあらはれる。光度負1.6等。蛇遺座の南部、アンタレス星の東に、殆んど動かない。このあたり美觀。

**土星** 月末わづかに曉の東天低く見える。水瓶座にある。光度1.2等。望遠鏡を持つてゐる人は、下旬に、水星、金星と近づぐところを觀望するのも面白からう。水瓶座に三遊星が集る。

**天王星** 宵西天の星。羊座にあり、光度6.2等。

**海王星** 觀望の絶好期に入つた。終夜見えてゐる。但し光度7.7等。小望遠鏡でその位置だけはわかる。獅子座をしづかに逆行中。

**冥王星** 雙子座の東邊にある。微光のため見えず。

×                      ×                      ×

一度でも花山を訪問された諸君は、宿舍のすぐ東にあるマツスグイ坂路を知つて居られるであらう。天文臺創立當時は、今の表立關に達する廣い道はなく、宿舍の東の道を上つて来てゐたものである。あの道は正しく子午線の方角を示し、丁度子午線館の觀測室中にある子午儀のために切開かれた道であつて、あそこに立つて私は、南天低いカノープス星をしみじみと見るのである。あのあたりの星座が三月の宵には南中する。カノープス星の光の中には南國の椰子の實のかをりを感じる。(淡翠山人)